

～互いの礼拝を豊かに～

北海
教区

い ろ な 拜
ん 礼

ヒント集



目次

はじめに 「今こそ、一緒に礼拝しましょう！」 2

I 信徒がリードする礼拝

- 1 賛美礼拝
新得教会 3/ 西札幌伝道所 5/ 旭川豊岡教会 7
- 2 インタビュー礼拝
名寄教会 9/ 新発寒教会 12
- 3 分かち合い礼拝
洞爺湖教会 14

II いろいろな試み～豊かな礼拝のためのヒント

- 1 映像を用いた礼拝 岩見沢教会 17/ 新発寒教会 19
- 2 日曜日以外の特別な礼拝など 島松伝道所 20
- 3 教会オリジナルのリタニー（連祷） 23
「悔い改めのリタニー」札幌元町教会

III 代務体制の時の礼拝

主任牧師が不在の教会、不在期間を経験した教会の礼拝の持ち方（報告 23 教会） 28

- ・ 代務・応援牧師、信徒の説教・メッセージ担当の回数
- ・ 礼拝形式 など

今こそ、一緒に礼拝しましょう！

北海教区宣教部革新部門

「共育」(礼拝等) 担当 藤吉求理子

北海教区は、その歴史の中で「すべての教会が毎週礼拝を守る」ということが、難しい時期が多くありました。数年前、道北や道東地区では半数以上の教会が代務体制となり、主任担任教師を迎えることが厳しい状況が続きました。広大な地区では隣の教会が170キロ先という地理的状況の中で、礼拝応援を頼むことがしづらく、いくつかの教会では、信徒の一人一人が、知恵とタラントを分かち合い、ユニークな方法で礼拝を守るようになっていきました。この資料集は、そのチャレンジの記録です。

第1章では賛美やインタビューなど、信徒が主にリードする礼拝を紹介しています。各教会で代務体制を経験する時や、牧師が体調不良で礼拝に参加できない時など、この資料集を用いてくだされば幸いです。また平時でも、教会員がお互いの日常や人生を知り合い、祈りを共にする機会となるのではないかと思います。

第2章には、映像を用いた礼拝などオリジナルな取り組みを掲載しました。プロテスタントの教会では、聖書の説き明かしである「説教」は礼拝の中心に置かれ、なくてはならないものと思う方も多いかもかもしれません。しかし、集う仲間の賜物を生かした、別の形の礼拝もまた信仰の証です。また、日曜日以外の特別な礼拝の中にも、聖霊の不思議な風は吹いています。地域の人たちがいつも出入りし、いろんな化学反応が起きる場合は、これからの教会に、ますます必要となってくるのではないのでしょうか。

第3章では、各教会の代務体制の時の礼拝の持ち方をまとめて表にしました。一口に代務体制と言っても、それぞれの状況があり、地区によって牧師の人数や協力体制も違うので、その方法も自ずと異なります。皆さんの報告を伺い、「代務体制」は試練の時であると同時に、恵みの時でもあると感じました。一つの教会の宣教活動をするためには、礼拝だけでなく、除雪や草刈り、週報作りなど、様々な働きがあります。その一つ一つを皆で話し合い、担う中で、信仰が強められ、連帯も深まるように思います。各教会が代務者を迎え礼拝担当のローテーションを考えるとときなどに、この報告を参考資料としていただきたいと思います。

この資料集は、2019年度に行った礼拝に関するアンケートを元に作成しました。礼拝形式を掲載した教会には、より詳しい報告を再度依頼させていただきました。ご協力いただいた教会の皆さんに、心より感謝申し上げます。アンケートの応答の中には、合同野外礼拝や、繁忙期の教会員のレストランでの礼拝など、紹介したい事例がありましたが、編集の都合上、すべてを載せることはできませんでした。報告いただいたことを、今後の活動の中で生かしていきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、制限の多い日々が続いております。声を出して賛美することも、会堂に集うこともできない方々を思うと、心が痛みます。今回紹介した礼拝は、今の時期にはやりづらいものが多いかもしれません。しかし、そこには代務体制という制限がある中でも「礼拝を守りたい」という熱い思いを見ることができます。今、オンライン合同礼拝など新しい方法も各地で始まっています。私たちは一人ではありません。こんな時だからこそ、これまで以上に助け合い、知恵を出し合い、「礼拝の喜びに生きる神の民」として共に歩いていきましょう。

I 信徒がリードする礼拝

1 賛美礼拝 賛美礼拝 ①

新得教会

報告者 小関優

式次第 (2017年12月31日 降誕節第1主日礼拝)

前奏

招詞 詩編98編1、3節(讚美歌P139)

讚栄 7(1、5節)

交読詩編 72編1～7節(P81)

使徒信条

子ども祝福 (こ)10、69「かいばおけにすやすやと」

祈り

讚美 57「ガリラヤの風かおる丘で」

①聖書 マルコ福音書13章1～13節(P88)

讚美 510「主よ、終わりまで」※2節後、間奏

②聖書 マルコ福音書13章14～23節(P89)

讚美 493「いつくしみ深い」

③聖書 マルコ福音書13章24～27節(P89)

讚美 579「主を仰ぎ見れば」※2節後、間奏

④聖書 マルコ福音書13章28～31節(P89)

讚美 430「とびらの外に」

⑤聖書 マルコ福音書13章32～37節(P90)

讚美 575「球根の中には」

⑥聖書 マルコ福音書14章1～9節(P90)

讚美 567「ナルドの香油」※2節後、間奏

讚美(応答唱) 45「わが主のみことばは」※繰り返す

黙想

献金と感謝

頌栄 90(4節)

主の祈り

後奏

1. 「讚美礼拝」を始めた経緯

讚美礼拝を始めた直接のきっかけは、2016年度から2年間教会が無牧師になったことである。月4回ないし5回の主日礼拝を守ることの困難さは覚悟していた。しかし原則月1回の代務者による説教、応援説教、信徒による証しなどを予定しても、ひと月のすべての主日礼拝を埋めることはできない。主日礼拝毎に説教される牧師のご苦勞を思わされた。信徒たちでどう礼拝を守るか。

そこで考えられたのが「讚美礼拝」だった。教会讚美について関心のある信徒が数人いて、讚美を中心とした「讚美礼拝」は可能ではないかとの提案があり、早速実施することになった。無牧師期間の礼拝を守るための窮余の策が「讚美礼拝」を行うきっかけであった。原則月1回程度、「讚美礼拝」を行うこととした。初めての経験で試行錯誤しながらではあったが、信徒同士の協力と奉仕の中、2年間の無牧師期間中、19回の「讚美礼拝」を導かれて守ることができた。

2. 「讚美礼拝」の実際

聖書箇所を選ぶのが課題であったが、「日毎の糧」の「週日聖書日課」を参考にしながら1年目途中まで試行錯誤しながら選んだ。1年目後半2月の「讚美礼拝」からは、「マルコ福音書」を継続して通読することとした。信徒で分担して聖書を朗読し、関連の讚美歌を選んでプログラムを構成することとした。試行錯誤しながら継続する中で、徐々に次のような進め方が定着した。

(1) 礼拝プログラムの工夫

- ①通常の流れを基本的に変更することなく、説教部分にそっくり聖書朗読と讚美歌を入れる。
- ②聖書朗読と讚美歌がすべて終わった後、み言葉に感謝し「応答唱」を入れる。
- ③その後に「黙想」の時間を設け、当日の聖書箇所の振り返り・感謝・祈りの時とする。

(2) 聖書箇所と讚美歌の選定

- ①聖書朗読は、毎回の礼拝で5人の信徒が交代で朗読できるように分担した。(事前に分担依頼)
- ②聖書の関連讚美歌選定には、「讚美歌21選曲ガイド」(教団出版局)を活用した。
- ③讚美歌は、全節を歌うのではなく聖書箇所に関連した節のみを歌うこととした。

(3) 讚美・奏楽上の工夫

- ①曲数が多いため、4節以上ある歌の場合、途中で短い間奏を入れ一呼吸できるようにした。
- ②当初は、讚美礼拝時の奏楽を前半・後半と奏楽者2人で分担したが、最終的には奏楽者同士の話し合いで讚美歌数は多いが一人で担当することとした。
- ③歌い慣れない讚美歌もあることから、「讚美礼拝」前週の主日礼拝後、毎週礼拝後行われている「讚美の集い」で練習をして次週に備えた。

3. 「讚美礼拝」を通して

当初は無牧師期間の窮余の策として始めたわけであるが、信徒で手探りしながら2年間19回の「讚美礼拝」を重ねることができ、大きな恵みを頂いた。礼拝とは、讚美とは、み言葉への応答とは、礼拝奉仕とは…といろいろと考えさせられることが多く、信徒一人一人の信仰が試され、慣れとして行われてしまいがちな礼拝を新たに見直しさせられるきっかけとなった。プログラムの構成、聖書朗読の奉仕分担、奏楽者の事前準備と苦勞…一つ一つに意味があり、信徒が育てられる機会となった。礼拝における「会衆の参与」とは何かを、図らずも学ばせていただいた2年間であった。

意図したわけではなかったが、無牧師期間最後の讚美礼拝(2018年3月25日)で、ちょうどマルコ福音書すべてを通読し終えることができた。神様の導きと祝福に心から感謝であった。

4. 信徒の声

- 初めて体験する讚美礼拝。奏楽者の都合ではなく、プログラムの流れを大切にと思い、戸惑いながら始まる。讚美歌数の多さ、調性の多さ、前奏曲の選曲には悩み、全節歌うのではなく時には間奏も入り、楽譜を工夫し、常に緊張感がありました。聖書朗読、み言葉を読む重みを体験。会衆讚美では讚美歌の言葉(歌詞)の大切さを感じ、奏楽者として楽譜はもちろん言葉(歌詞)を大切に弾きたいと新たな気持ちになった。2年間たくさんの恵みを頂きました。(奏楽者K姉)
- 「讚美礼拝って?」「こんなに何曲も弾けるだろうか?」不安や戸惑いから始まった「讚美礼拝」。聖書輪読の間に歌うことで、弾き始めるタイミングが会衆と上手く合わず動揺した事を覚えています。今になってみると無牧師期間を教会員一人一人が「祈り」「聖書のみ言葉」「力強い讚美」で礼拝を守ってこれたのは、困難や苦しみを乗り越える力を神様が与えて下さっていたからだと感じます、私達が大変な時こそ、共にいて働いて下さる神様に感謝です。(奏楽者T姉)
- 無牧師の期間を乗り越えられたのは、讚美礼拝と毎週礼拝後の愛餐会が大きかったと思います。今を乗り切らなければという思いで、礼拝に出席することのみに必死でしたが、振り返ってみて、準備をして下さった兄弟姉妹に、感謝の思いで一杯です。讚美礼拝を通し、歌う姿勢が変わりました。讚美歌を歌い捧げることが、お祈りの姿勢と同じことだと感じ、今に至っています。(M姉)

賛美礼拝 ②

西札幌伝道所

報告者 本間真理

式次第 (2020年7月19日 聖霊降臨節第八主日礼拝)

前奏		奏楽者
招詞		司式者
賛美 (1)	58番「みことばをください」	一 同
主の祈り		一 同
使徒信条		一 同
賛美 (2)	206番「七日の旅路」	一 同
聖書朗読	イザヤ書 53章 4-5節	司式者
賛美 (3)	458番「信仰こそ旅路を」	一 同
聖書朗読	コリントの信徒への手紙二 4章 16-18節	司式者
祈祷		司式者
賛美 (4)	513番「主は命を」	一 同
献金		一 同
感謝祈祷		司式者
頌栄	27番「父、子、聖霊の」	一 同
祝祷		牧 師
後奏		奏楽者

補足

各讚美歌を歌う前に、司式者がその讚美歌についての説明や自分の思いを短く語ります。今回の礼拝では以下のようなことを話しました。

賛美 (1) 58番「みことばをください」

作詞者は第二次世界大戦の敗戦の混乱の中で、福音に接して献身した牧師です。世界中で同じいきづらさを感じている今、作詞者も言っているように「み言葉をください」と祈らざるを得ないことに共感します。

賛美 (2) 206番「七日の旅路」

第一節：集合、第二節：告白と赦し、第三節：聖餐、第四節：み言葉と終末 というふうに、礼拝的な構造に整えられた歌です。私は若い頃、休日には必要ない、心も体も休まなくても大丈夫と思っていましたが、それは大変傲慢な生き方だったと気づかされました。礼拝ができない状態になって、歌いたいと思ったのがこの讚美歌です。折しも、牧師が先日ウィリアム・バークレーの『祈り』を週報に載せてくださっていました。

「この主の日をお与えくださいますて感謝します。私たちの日々の仕事から離れ、身体を休め、心をさわやかにし、精神を強める、この休息の日を与えられ感謝します。この日の礼拝に出席し、気苦労と心配事から離れ、思いをすべてあなたに集中することができまして感謝します。私たちにあなたの教会が与えられ感謝します。教会の中で楽しむことのできる交わりを与えられ、また教えを与えられ、生活の指導を受けることができまして感謝します。私たちあなたの言葉を読み、あなたの真理の説教を聴き、あなたを賛美して歌い、あなたの民の祈りに加わり、あなたの恵みの礼典が受けられ感謝します。この主の日にあつて、私たちは来るべき週の日々においてあなたから落ちることなく、あなたと共に歩むことができるような力と導きとを受けることができるようにしてください。私たちの主イエス・キリストによって アーメン。」

賛美（3） 458 番「信仰こそ旅路を」

作詞者はトーマス・リンチというロンドンの牧師で、原曲はスイス民謡ともいわれています。素朴な親しみやすい歌で、歌っていて前向きな気持ちにさせられ、元気づけられます。

賛美（4） 513 番「主は命を」

この讃美歌の作詞者は、ある牧師の書齋にあったキリストの絵の下に、「わたしはあなたのためにこの苦しみを受けた。あなたはわたしのために何をしたか」と記してあつたのに感動して、この詞を書いたそうです。主イエスが私たちに慈しみと永遠の命を与えてくださったのに、応えていない愚かな自分に気づかされ、申し訳なさと胸が一杯になります。

所感

西札幌伝道所では、代務体制であつた 2006 年から 2013 年まで、第五主日を賛美礼拝としていました。2013 年以降、主任担任教師が与えられてからも、第三主日を信徒が担当する「分かち合い礼拝」とし、担当者が「奨励」「証し」「賛美」の三つの中から選択して準備するようにしています。賛美礼拝を捧げるのは、年に 4 回ほどでしょうか。

歌う讃美歌は担当者が選び、それに基づいて牧師が聖書箇所を選びます。『讃美歌 21 略解』で、作詞者や作曲者の思い、時代背景などを知ることができます。読んで改めて感じることは、讃美歌とは本当に、時代が変わっても人々の心が動かされる歌なのだということです。心の癒しや勇気をもったり、喜びで胸が一杯になったりと、その時の心の有り様をよく表してくれると感じます。私がこのように、ショートメッセージと賛美を繰り返す礼拝を担当するようになったのは、たまたま置戸教会でこういう形の賛美礼拝に出席したことがきっかけでした。その時の流れをひな型にして、自分なりに準備をしています。主任牧師がいても、信徒が礼拝を担当することで、信仰が育てられると感じていますし、讃美歌とはこんなにも力があり奥深いものかと再認識させられます。出席者も、皆で歌い主に捧げる礼拝は、西札幌伝道所の賜物であると感じてくれているようです。

賛美礼拝 ③

旭川豊岡教会

報告者 川嶋めぐみ

式次第 (2017年5月28日 復活節第七主日礼拝)

前奏		奏楽者
招詞		司式者
賛美 (1)	32番「キリエ・エレイソン」	一 同
主の祈り		一 同
詩篇交読	詩篇 33 篇 1-11 節	一 同
賛美 (2)	32番「キリエ・エレイソン」	一 同
祈祷		司式者
聖書朗読	ルカによる福音書 24 章 44-53 節	司式者
賛美 (3)	32番「キリエ・エレイソン」	一 同
使徒信条		一 同
賛美に関する祈り		司式者
「神様、私たちは、あなたの栄光を見上げます。私たちは、あなたの愛を心で受け止めます。私たちは、あなたの真実を理解するための力を求めます。私たちは、あなたの聖名を賛美します。神様、あなたが私たちに命をくださったように、私たちのすべてをお受け取り下さい。世界のすべてに、あなたの恵みを伝えることができますように。アーメン。」		
賛美 (4)	リクエスト曲から	一 同
献金		一 同
賛美 (5)	32番「キリエ・エレイソン」	一 同
黙祷		一 同
後奏		奏楽者
報告		司式者

所感 「主任担任教師のいる教会にできること」

私が道北地区の活動に初めて加わったのは2015年でした。当時の道北地区が抱えていた問題は、主任担任教師不在教会が多かったこと。一番、少ない時で10教会のうち主任担任教師がいるのは4教会だけの時がありました。そんな中で、私たち旭川豊岡教会は主任担任教師がいる数少ない教会の一つでした。

賛美礼拝を知ったきっかけは、2015年度に行われた道北地区集会でした。開会礼拝で、当時、主任担任教師不在だった名寄教会で行われていた「賛美礼拝」を体験しました。出席者の皆さんに無記名で好きな賛美歌の番号を紙に書いて箱に入れてもらい、礼拝中本来ならお話を聞く時間に、奏楽者が司会をしながら無作為にその紙を引いて、出て来た番号の賛美歌を皆で次々と歌っていくというものでした。同じ番号が何回も被って会場に笑いが起こったり、意外と頌栄の賛美歌に

人気があったりして、楽しかったです。頌栄の賛美歌が好きな理由として、「元気が出て、また1週間頑張ろうと思えるから」と出席者のお一人が話してくださいました。私は奏楽を担当していて、次に引く賛美歌番号が知らない曲だったらどうしようとハラハラドキドキし通しでしたが、「みんなで礼拝を作っている」感じがして、とても新鮮で嬉しい気持ちになりました。

2016年には、旭川伝道圏主催で「旭川で一日修養会」を、旭川豊岡教会で行いました。年々、泊まりがけでの修養会が難しくなっていたので、日帰りで交わりを持つようになっていたのです。テーマを「賛美と証」とした、賛美歌をメインにしたプログラムでした。参加者の方々に好きな賛美歌をリクエストしてもらい、その賛美歌にまつわる一人一人の思いを分かち合い、昼食をとった後は時間の許す限りリクエストされた賛美歌を歌い続けるというものでした。奏楽も、パイプオルガン、リードオルガン、ピアノ、無伴奏(!)から好きな楽器を選んでもらいました。意外と人気があった楽器は、ピアノでした。

各教会から29名の参加があり、私は奏楽を担当しました。29曲の賛美歌。楽器を変えながらの奏楽は大変でしたが、参加者の感想として「自分の好きな賛美歌をみんなで歌えて嬉しかった」「知らない賛美歌もあったので、歌えて良かった」「いろんな思いを抱えている人たちが、音楽を通して癒される時間を過ごせたんじゃないかな」という声を聞き、「やって良かった」と思えました。

2017年、「主任担任教師不在教会への礼拝応援のための新制度」が北海教区に作られ、道北地区の士別教会がこの支援を受けることになりました。そんな中、旭川豊岡教会も、主任担任教師である韓守賢牧師を礼拝応援のために派遣することになりました。韓先生のいない主日、礼拝をどう守ろうかと役員会で話し合いました。「教会員のどなたかにお話をしてもらおう」「CDに説教を入れておいてもらおう」などの意見も出ました。が、主任担任教師不在教会の多い道北地区に対して「主任担任教師のいる教会」として旭川豊岡教会にできることの一つは「教師を派遣すること。これから教師を送り出す機会が増えるかもしれない中で、前述のような礼拝を何度もするのは難しいと考えました。では！「音楽礼拝」をやってみよう！ということになりました。役員が中心となって準備をしましたが、「道北地区集会」や「旭川で一日修養会」の経験があったので、特に困難もなくスムーズに進みました。今回は、リクエストの紙に、名前と好きな賛美歌の番号、その理由を書いて、リクエストボックスに入れてもらいました。韓守賢先生が、プログラムの中にリクエスト曲を歌う時間を組み込み、通常の礼拝で賛美歌を歌うところはキリエ・エレイソンだけを歌うようにしてくださいました。主日礼拝なので、修養会のゆったりとした雰囲気とはまた違う心地よい緊張感の中で、一人一人の思いのこもった賛美歌を皆さんと一緒に歌えることに、喜びを感じました。初めてのことだったので、出席者の中には「戸惑った」という意見ももちろんありました。

旭川豊岡教会が音楽礼拝を守ったのは今までこの一度きりですが、この経験を生かし、これからも機会があれば「いろんな礼拝」を積極的に取り入れていきたいと思っています。

2 インタビュー礼拝

インタビュー礼拝 ①

名寄教会

報告者 日向恭司

名寄教会のインタビュー礼拝について 藤吉求理子

名寄教会のインタビュー礼拝は、主任牧師不在時に、代務者のロバート・ウイットマーさんの発案で始まりました。きっかけは洗礼準備会でした。2013年に2名の30代の女性が洗礼を希望され、その準備の中で「長年教会に通っておられる女性信徒の方々から、信仰の歩みについての話を伺いたい」というリクエストがありました。話を伺う方の中には90代の女性信徒さんもいらっしゃったので、通常の「奨励」ではなく、質問をし、じっくり信仰の歴史を聞く形となりました。その後は、年齢に関わらず、インタビューを通して、様々な方が自らの人生を振り返るお話をしてくださいました。人前で「奨励」を15分話すことは難しいが、前もって質問が分かれば、準備してインタビューに応えることができるという方もいました。高校や大学を卒業し、名寄を離れる学生さんたちにも、今後の抱負も含めて話をしてもらいました。時には、普段の会話の中では語られない、心の奥にある痛みや喜びを聞く機会となることもあり、交わりが深められたように思います。名寄教会は7年間牧師のいない期間を経験し、毎週の礼拝を捧げるには多くの方のお支えと、工夫が必要でした。そのため、多様な形式の礼拝にチャレンジする機会が与えられたことは、恵みだったと思います。

インタビュー質問例

- ① 教会に行くようになったきっかけを教えてください。
- ② 洗礼を受けるまでの想いをお話してください。
- ③ 好きな聖句について思う事をお話してください。
- ④ 今楽しい事は何ですか。大変な事は何ですか。
- ⑤ 今後の夢を聞かせてください。
- ⑥ 今後の教会に期待する事は何ですか。(名寄教会に限らず教会全般) また変わってほしい事があれば教えてください。

- ・ 礼拝の中では愛唱賛美歌と聖句を用いました。
- ・ 安心して話せる関係性を重視し、インタビュアーは牧師と役員が交代で担当しました。

インタビュー礼拝実施日

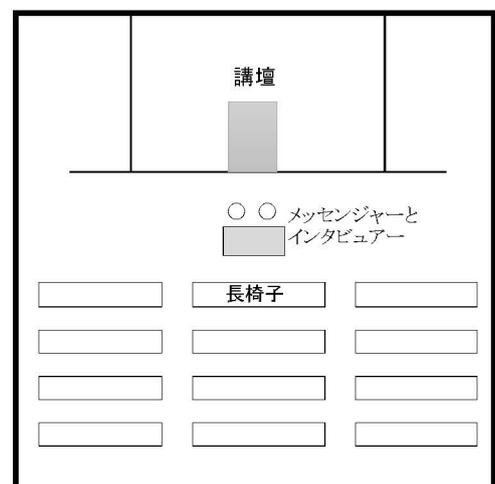
2013年：1月27日・2月24日・3月17日

2014年：11月23日・12月7日

2015年：3月22日

2018年：2月18日

見取図



式次第・週報

2018年2月18日 受難節第1主日 礼拝順序

前 奏

招 詞 詩編98編1節

◎ 讃美歌(21) 85番 「サントサントサント」

主の祈り

さんびか 10番「ことりたちは」

おはなしとこどもの祝福

交読文 詩編133編

聖 書 ヨハネによる福音書15章5節

とりなしの祈り

◎ 讃美歌(21) 575番「球根の中には」

使徒信条

証 若林まにさん（インタビュー 藤吉求理子）

献金・感謝祈祷

◎ 讃美歌(21) 88番「こころに愛を」

祝 祷

後 奏

祈りの時

報 告

信徒さんの感想

加藤千鶴子

名寄教会は数年間、牧師不在の時があり、代務牧師が教会を支えて下さいました。

信徒それぞれの働きも大切な役割でした。礼拝説教も信徒が担当しなければならない時がありましたが、講壇で信徒が証しをする事へのためらいから、同じ信徒が繰り返し証しをする事になり、「それでは『インタビュー礼拝』はどうか」と試みてみました。

最初にインタビューを受けた方は、90歳過ぎの女性の信徒でした。最初はためらっていましたが、インタビューをする方の進め方で、ためらいもなく20歳くらいからの証しを聞くことができ、その方の今までの信仰の深さを知り、嬉しさと感謝の時でした。

また、専修高校生、大学生と自分が経験したつらい出来事についての証しもありました。そこで聖句の「わたしはぶどうの木、神につらなる事がぶどうの木」と泣きながら証しをする姿にわたしたち信徒も一緒に泣いていました。

わたしもインタビューを受けた一人でした。インタビューをする方が隣に座り、話しかけるようにして、緊張することなく証ができました。

- ・教会に通うきっかけ（教会学校からのこと）。
- ・洗礼を授かったこと。
- ・名寄教会で結婚式をしていますので、夫との出逢い。
- ・看護師としての働き、その中での信仰
- ・好きな聖書の箇所、讃美歌

事前にインタビューの様式を渡して頂いていますので、難しく考えることなく証しの役割を果たすことができ、新しい礼拝の形の1つではないかと思っています。

塩崎理恵

名寄教会のインタビュー礼拝は、私と、もう一人の受洗者の溝田さんが受洗前に、信仰の先輩からのお話を聞けるようにと設定して下さいましたので、とても感謝しています。

インタビュー礼拝の日は、司会の方とお話して下さる方が前に座り、その方のプロフィールから始まり、どうして礼拝に来るようになったか、どのように信仰の日々を歩んでおられるか、現在どんなことを感じておられるかなど、とても和やかな雰囲気の中でインタビューが行なわれました。教会や信仰の話だけでなく、その人がどんな人生を歩んでこられたか、現在どんな暮らしをしていて、どんなことが嬉しくて、また困っているかなど、教会の仲間のことを前よりよく知ることができて、それも良かったです。一人で話すのではなくインタビュー形式というのが、リラックスした雰囲気を作り出して、その方の自然な答えを引き出していたのだと思います。また、壇上に上がるのではなく、みんなと同じ目線で、インタビューが行なわれたので、席に座って聞いているのに、なんだか輪になって、みんなで二人を囲んでお話しているような、温かい気持ちになりました。道北センターで行われる三愛塾では、聖書と人生という、その方の人生をお聞きするプログラムがありますが、それに似て、その方の人生を聞かせてもらって、豊かな気持ちになりました。名寄教会らしい、あったかいプログラムでした。

教会に来る前は、キリストを信じるといことは、潔白で完璧を目指すことなのかな、そういう、素晴らしい人が教会に行くのかなと勝手に思っていたのですが、教会に来るようになって、信仰を持つ方とたくさん知り合う中で、完璧な人など（もちろんですが）いなくて、みんな弱さを持ちながら、イエス様に少しでも近づきたくて歩んでいるんだなということがわかってきました。インタビュー礼拝では、さらに、一人一人いろんな人生があって、それぞれの信仰があるのだということを知ることができました。礼拝に行って、牧師先生の説教を聞くのは豊かな時間で、いつも救われ、感謝ですが、信徒の方のお話を聞くのも、またちがった形で、みんなそれぞれの生き方の中でイエス様の方を向いておられるのだな、私もこれでもいいのかなと、受洗に向けて肯定的な気持ちになりました。お話しして下さった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。

インタビュー礼拝は、私たちの受洗後も続けられ、人生の先輩から、若い大学生の仲間まで、いろんな年代の方のお話を聞くことができました。皆さんのことを前よりよく知ることができて、教会がもっと自分の居場所だと感じられるようになった気がします。このような分かち合いの場を作ってくれたことに、改めて感謝いたします。

インタビュー礼拝 ②

新発寒教会
報告者 清水和恵

式次第

1、礼拝式順（2020年3月29日）

前奏		奏楽者
招きのことば	詩編 33:20～21	司式者
賛美	305（1, 2, 6）	みんな
主の祈り	讃美歌 93-5-C	”
リタニー	「いのちの門」	”
聖書とこどもメッセージ		清水和恵牧師
祈り		”
讃美	484	みんな
	【こどもたちは分級へ】	
聖書朗読	ローマへの信徒への手紙 12:15	司式者
祈り		”
賛美	510	みんな
メッセージ	「歩いてきた道」	証言者
祈り		”
	【こどもたちと共に】	
賛美	504	みんな
平和のあいさつ（消息、新来会者紹介）		”
献金		”
賛美	91	”
祝福と派遣		清水和恵牧師
報告		司式者
後奏		奏楽者

※礼拝後に、メッセージの分かち合い。

席の配置

講壇の前に、インタビューの聞き手と話し手の椅子、マイク、テーブルを置き、会衆は対面するかたちです。

参加者の感想

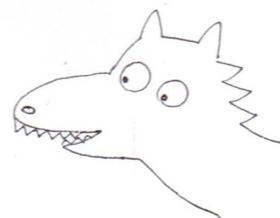
- よく行われる一般的な証より担当者が気楽に行えます。牧師がリードしてくれるので、心強いです。又、比較的信徒歴が短くても担当できると思います。聴かせてもらう方も前述のような理由から、より多くの人の証を聴く機会が増えて信仰の糧になると思います。
- 毎回、それぞれに与えられる神様の恵みに驚きと感謝を覚えます。
- 礼拝に参加しやすく、これからの礼拝の可能性を秘めていると思います。
- 形式的、一方的になりがちな礼拝が、主体的に参加する礼拝に変わると思います。権威的な礼拝ではなくフレンドリーな礼拝になると思います。いつもそうであるべきとは思いますが、きっと良い結果が出てくると思います。豊かな交わりのある教会になると思います。
- 話す人も話しやすく、聞く人も聞きやすいと思います。
- 現在は牧師がインタビューし、信徒がそれにこたえて証をしていただく形の礼拝を実施しています。信徒の方は、教会に来たきっかけ、愛唱讃美歌、愛唱聖句、信仰生活で大事にしていることや喜び、これからの教会に望むことなどを中心に語ります。聖書、讃美歌は証する信徒が選びます。

新発寒教会は、インタビュー礼拝、信徒メッセージ礼拝のときは、礼拝後に必ず分かち合いの時間をもちメッセージに対する感想、意見を語り合います。

以前、牧師がロンドンのとあるイギリス国教会の礼拝に出席したときは、まさにインタビュー礼拝でした。会衆の中でとても和やかでくつろいだ空気があり、またインタビューに答える人が生き生きと話され、この形式で守る礼拝に斬新さを覚えました。この礼拝をいつか、新発寒教会でも採り入れられないか、模索しておりましたら、藤吉求理子牧師よりカナダ合同教会や名寄教会でも実践していることを伺い、さっそく参考にさせていただいて、年に2回ほど行うようになりました。証をしにくいと思う信徒も、この形なら話しやすいと感じる方は多いようです。今は、牧師がインタビューをしています、いずれその担当も信徒が担うことが望ましいと考えます。

ちなみに、ロンドンの教会で使われた讃美歌はいわゆるワーシップソング。礼拝後に何故このような礼拝を行っているのか牧師に聞きましたら、40年前から教会の若者離れが深刻で、礼拝の持ち方を真剣に考えた結果、試行錯誤のうえ、今の形になったとのことでした。築150年の重厚な造りの古い会堂に賛美のために置かれていたギター、キーボード、ドラムの楽器、そして牧師はセーターにジーンズという格好、いわゆる「クラシックにモダン」だったのが印象的でした。

そして福音の喜びは豊かに語られ、分かち合われていたのです。



3 分かち合い礼拝

洞爺湖教会 報告者 村上浩康

洞爺湖教会における「分かち合い礼拝」には、歩んできた時代でいくつかの形があります。ただどれも、迫られた状況の中から生まれたもので、正直、積極的・主体的にそれを選んで実践してきたとは言いきれません。たった数人が教会活動に精一杯を尽くして疲弊し、それでもなお活動を続けようとする中でのそれぞれにかかる負担、地区や教区にかける負担を思いやって形作られてきたものだと思います。そんなふうに使われた「分かち合い礼拝」には、当時の洞爺湖教会のメンバーにとって、どこか宙ぶらりんな不安がいつもつきまとっていましたが、一方で、思いがけない豊かで恵まれた時間を得たことも事実です。

◆ ステップ1 牧師がいる中での「分かち合い礼拝」(2002年度～2003年度)

毎月1回、おおよそ第4日曜日に実施。座席形態は普段通りの対面式。礼拝式順も普段通りだが、「メッセージ」が「分かち合い」となり、牧師からショート・メッセージがあった後に「恵みの分かち合い」という時間を持つ。メッセージの内容やその日の聖書の箇所を受けての感想や考えたこと、それぞれの近況や日常生活の中で思うこと、考えていることなどを語り合い、祈り合う。

◎ 式次第 奏楽はヒム・プレーヤー

前奏

招詞

讃美歌

交読文

祈り(司会者)

こども祝福

聖書朗読(輪読)

讃美歌

分かち合い ショート・メッセージ(牧師) 恵みの分かち合い(みなさん)

祈り(有志)

主の祈り

讃美歌

奉献(奉献台にある式文の朗読または自由祈祷)

報告

頌栄

祝祷

後奏

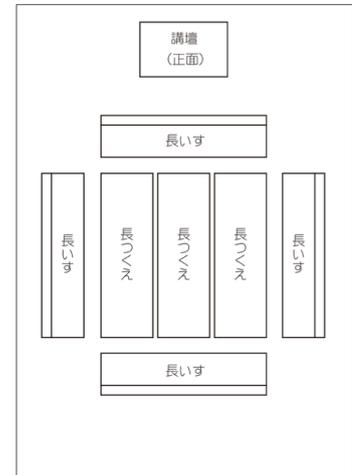
◎ 経緯

2000年の有珠山噴火後、北海教区で「災害を繰り返す地に建てられた教会の存在意義」が再認識され、教区に組織された洞爺湖教会宣教協力委員会(現・洞爺湖教会宣教協力協議会)によって主任担任牧師が与えられましたが、札幌から土日に通う形で常駐ではありませんでした。噴火による教会休止と避難による四散を経験したメンバーと共有する時間の少なさなどから、当時すでに浦河教会で実施されていた「分かち合い形式の礼拝」をヒントに、その牧師が始めたのが「分かち合

い礼拝」です（2002年5月から）。これがあつたからこそ、牧師不在の上、他からのメッセージ応援もままならない時に、「分かち合い礼拝」をするという選択肢が私たちの頭に浮かんだと思っています。牧師がいなくなる前に、準備の一つとしてお試しください。

◆ **ステップ2 牧師不在時の「分かち合い礼拝」**（2004年度～2011年度、2013年度～2014年度）

毎月1～2回、完全に信徒だけの自主礼拝を「分かち合い礼拝」と呼んで実施していた。座席形態は長机を数台並べて、それを囲む口の字（右図）。司会者も特に正面に限らず、各自好きなのところに座る。基本的に普段通りの礼拝式順に添って進行され、「メッセージ」が「分かち合い」となる。おおよそ前月役員会で決められるその日の「分かち合い」担当者が、聖書や讃美歌を選択し、用意してきた話を提供する。話の内容は自由で、「信徒の友」の日毎の糧を利用することもある。証言（奨励）になることもあるが頻繁ではない。理由は、少人数のため担当ローテーションの回転が早く、その準備がじきに負担になるから。人員がさらに不足する日は、「分かち合い」担当者が司会者を兼ねる場合もある。「分かち合い」の時間では、その日の担当者の話や聖書、時には讃美歌を受けて感想や思い、考えたことなどを語ったり（パスも妨げない）、それぞれの一週間の歩みや最近考えていることなどを語り合い、聞き合う。時間の進み具合によっては、予定外の讃美歌をリクエストしてもらって歌う場合もある。終始着席のままであったり、聖書朗読を輪読にしたり、「分かち合い」後の祈りに複数を指名したり、それはその時の司会者や担当者の采配次第。



を兼ねる場合もある。「分かち合い」の時間では、その日の担当者の話や聖書、時には讃美歌を受けて感想や思い、考えたことなどを語ったり（パスも妨げない）、それぞれの一週間の歩みや最近考えていることなどを語り合い、聞き合う。時間の進み具合によっては、予定外の讃美歌をリクエストしてもらって歌う場合もある。終始着席のままであったり、聖書朗読を輪読にしたり、「分かち合い」後の祈りに複数を指名したり、それはその時の司会者や担当者の采配次第。

◎ **式次第** 奏楽はヒム・プレーヤー

- 前奏
- 招詞
- 讃美歌
- 交読文
- 祈り
- 聖書
- 主の祈り
- 讃美歌
- こども祝福
- メッセージ 分かち合い（担当者および司会者）
- 祈り（有志）
- 讃美歌
- 使徒信条
- 奉献
- 報告
- 頌栄
- 祝祷
- 後奏

◎ 経緯

主任担任牧師不在になった時から導入されました。当時の礼拝メッセージは、代務者が月 1～2 回、苫小牧地区内からの牧師もしくは信徒による応援が月 1 回、同地区で隣りの教会である室蘭知利別教会からの信徒による応援が 1 ヶ月または 2 ヶ月に 1 回、そして自主礼拝としての「分かち合い礼拝」が月 1 回でした。何らかの理由で前者 3 つのいずれかがキャンセルになった場合も「分かち合い礼拝」で対応していました。たった一人での礼拝も 2 回ほどありました（それぞれ別のメンバー）。外部からの応援を得やすいように考えて、2006 年度からは礼拝開始時刻を午後 2 時半としました（2011 年 9 月まで）。そのことで、担当応援者が複数連れ立って洞爺湖教会の礼拝に参加してくれました。

■ 牧師がいる場合といない場合の相違点

牧師がいる時のショート・メッセージ後の「恵みの分かち合い」と、自主礼拝としての「分かち合い」では、その形式の礼拝に向かう姿勢が違うように思われる。

主任担任教師がいて、全週のメッセージ担当者が与えられている中では、礼拝準備の段階から安心感と精神的な余裕があるので、“分かち合い形式”に対しても「こういう形があっても良い」というおおらかな姿勢で臨めるのに対して、自主礼拝のほうはどこか「メッセージ担当者がいないために仕方なくそうになっている」という不足感も否定できない。ただしこれは、「教会には牧師がいることが当たり前」「牧師がいないと礼拝は行えない」という固定観念が引き起こしている可能性もあると考える。洞爺湖教会では、目の前に起こった状況に対処していくしかない中で、この「分かち合い礼拝」を続けていく内にこの形が受け入れられ、少しずつ楽しめるように、そしていつの間になくってはならないものとなっていったと考えられる。

■ 「分かち合い礼拝」を体験した信徒の感想

主に牧師不在の「分かち合い」の場合、マイナスと思われる面には、信仰的な指針を得られにくいこと、少人数で分担する準備の負担（工夫次第で軽減は可能）、それから新来会者（特に初めてキリスト教に触れるという人の場合）への対応、自分自身のことも含めて“求め”に対する応答を用意できているのかという不安（信仰的な指針に関連）、そして今のこの形のままで良いのかという不安がある（状況でこうなっているとは言え、なかなか自信は持ちにくい）。

牧師の在不在に関わらず、プラスと思われる面には、「分かち合い」の時間があることでお互いの生活や信仰が見えやすく、それぞれが日常の中で神さまとどう繋がっているのかを確認でき、そこからの大きな学びや気づきがあること、言葉として口に出すことで自分の中にある思い（不安や喜び、信仰など）を整理できることがある。

教会での仕事を中心的に担っているメンバーの精神的・心理的な浮き沈みによって、「この形で良い」と思えることも、「良くないのではないか」と思えることもあった。やはり、主任担任教師がいない中では、教会存続への悩みが増える時ほど、「分かち合い」という形式に対しても不安を感じるという連鎖があったと思われる。しかし、この「分かち合い」が大切な役割を果たしていたことも事実で、「分かち合い」に参加できない時にはストレスが溜まり、物足りなさを感じることもあると断言する人もいたほど。上手な位置づけをして、良い形で残していけたらいいと思う。

【参考文献】：洞爺湖教会週報（2002 年度～2019 年度から抜粋）、教会報『トー・ヤ』（第 2 号～15 号）
北海教区「信徒と教職の共同研修」“信徒が主体となって守る礼拝”発題資料（2006 年度）
北海教区「信徒がリードする多様な礼拝」資料作成のためのアンケート回答（2019 年度）

II いろいろな試み～豊かな礼拝のためのヒント

1 映像を用いた礼拝 ① クリスマス讃美礼拝

岩見沢教会
報告者 佐藤幹雄

式次第

1. 通常の主日礼拝

通常は、右ページの写真①のような座席配置で行っています。手前のテーブルが司会者と使信担当者の席です。丸くなって皆の顔が見える形で、また、常時座っている以外、礼拝順序はごく普通の内容です。

2. 使信として映像を上映する場合

牧師がお話をするのではなく、使信として、映像(例えば、手塚治虫の『天地創造』など)を上映したことがあります。その場合は、司会者・使信担当者の座席の後ろにスクリーンを配置し、映写する時だけ、二人はすぐ近くの会衆

席に移動しました。写真②のスクリーンの前にテーブル・イスを置くと、おおよそ似た配置になります。礼拝順序は、通常の礼拝と何一つ変わりありません。

3. クリスマス讃美礼拝

礼拝順序の例(2005年のもの)を左に記しましたが、20年くらい、ほとんど同様のプログラムできています。もちろん、聖書や讃美歌はそのつど選んでいます。全体の構成にあまり変化はありません。

「第2部 クリスマスのメッセージ」において、絵本朗読に牧師の言葉による使信を加えることもあります。絵本の絵は、プロジェクターを使って大きく映写しています。

「第1部 聖書と讃美歌によるページェント」の聖書朗読と讃美歌の時も、その内容に因んだ絵を映写しています。

右ページの写真②のような配置で行っています。手前に、使信担当者・映写担当者・司会者が座り、右手の2列に聖歌隊が座ります。

*A この年に朗読した絵本は、教会員である夫妻の作です。もちろん、絵本作家のものを朗読することもあります。

*B マリンバ演奏、チューバ演奏、独唱の年もあります。

2005年クリスマス讃美礼拝

前 奏

…消灯

○第1部 聖書と讃美歌によるページェント

◇主を待ち望む

聖書朗読 詩編130:1~6 聖歌隊員

讃美歌 160番1・5節 …点火 聖歌隊

◇イエスの誕生

聖書朗読 ルカによる福音書1:26~38 聖歌隊員

讃美歌 175番 一同

聖書朗読 ルカによる福音書1:46~55 聖歌隊員

讃美歌 133番1・3節 聖歌隊

聖書朗読 ルカによる福音書2:1~7 聖歌隊員

讃美歌 250番1・2・5節 一同

聖書朗読 ルカによる福音書2:8~20 聖歌隊員

讃美歌 265番1・2・4節 一同

◇イエスの生涯

聖書朗読 イザヤ書8:23b~9:5 聖歌隊員

讃美歌 275番1・3節 聖歌隊

○第2部 クリスマスのメッセージ *A

絵本朗読 及川清美(文)・及川のり子(絵)
『ミューのクリスマス』

○オルガン演奏 *B

…点火

○第3部 応答と派遣

献 金

お 祈 り

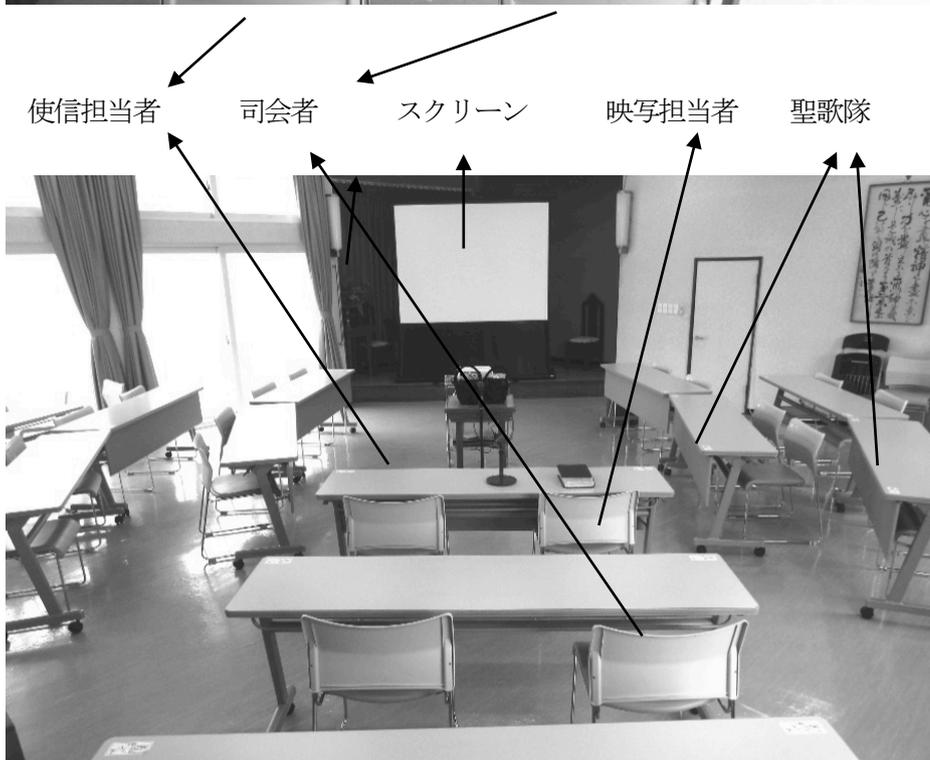
讃美歌 264番 一同

祝 祷

後 奏

見取り図

① 通常の主日礼拝



② クリスマス讃美礼拝

感想

4. やってみて

新しい試みをして戸惑った人が多かったのは、映像を使った礼拝ではなく、囲むようなテーブルとイスの配置にした時です。それでも、今ではほとんど慣れて、定着してきていると言えます。

礼拝堂の中に、中心となる固定した場所を作らないことを考えると、結果的に円卓に近い配置になりましたが、それは同時に、自由に椅子の移動や配置換えができるということにもなります。例えば、①と②では、司会者・使信担当者の席は正反対ですが、違和感はありません。形に拘束されないで色々なことができるのは良いですね。

映像を用いた礼拝 ② 夕礼拝

新発寒教会

報告者 清水和恵

式次第

毎月第4日曜日 17:00～ 2020年度は 15:00～（映画上映のため）

1. 基本的な礼拝式順（その時のテーマによって、式順は変わります）

賛美、聖書朗読、メッセージ（映画上映のときは無し）、祈り

2. 内容

朝の礼拝に参加できない方、求道者や地域の方々に参加を広く呼びかけたいと願い、2019年度から開始いたしました。2019年度は北欧の讃美歌や平和を歌う讃美歌、ゴスペルを歌う賛美礼拝をいたしました。2020年度は、牧師が映画好きということもありましたが、映画を鑑賞して語り合う礼拝にいたしました。特に洋画はキリスト教、聖書をベースに制作された作品が少なくないです。福音伝道のため、キリスト教に入りやすい切り口で、有効かつ可能性のある集会であると思います。司会の担当、映画解説、映画を選ぶのは、牧師だけではなく信徒も担います。

席の配置

通常の礼拝の形態に、スクリーンをはります。

参加者の感想

- ・夕礼拝は映画鑑賞になってからとても充実してきたと思います。他教会や札幌映画サークルの方、求道者の参加もあり、監督の意図やキャストについて、時代背景なども伺えて面白さ倍増です。「アメイジング・ジャーニー」「エデンの東」「バベットの晩餐会」等、キリスト教に関しての映画は、牧師の解説から映画の背景に聖書の言葉を読み取ることができ、映画も聖書も味わっています。教会員以外の多くの方に広めたいと思います。
- ・教会の集会は映画会や音楽、美術、文学等と結びつけて行くと、参加の枠が広がりやすいと思います。その意味で今年度の映画会は、良い考えだと思います。地域の人に教会がハードルの低い、親しみやすい方法だと思います。
- ・夕礼拝については、いろんな形式があってもいいのではないかと思います。映画鑑賞、賛美礼拝、近隣教会との交流、クイズ形式の学びの会、集会の参加報告など、いろいろあっていいと思います。
- ・解説付きで映画を見て、感想を述べあって、祈りをもって散会する。楽しい夕べのひとつです。

※付記 新発寒教会は牧師不在の時は、信徒がメッセージを担当します。過去に、清水牧師が産休（3か月）のときは、教会員と地区の有志の牧師が礼拝メッセージを担当しました。

2 日曜日以外の特別な礼拝

島松伝道所の多様な「礼拝」

島松伝道所
報告者 辻中徹也

当事者研究の場で起こっていること

島松伝道所 辻中明子

「当事者研究」とは

べてるの家の川村ドクターは「薬ではなく仲間を処方する」という。つまり、個々の苦労や生きづらさに対して、薬の処方箋ではなく、語り合える仲間を紹介するというのだ。当事者研究の場はそれに近いと思う。

進め方に細かいルールはない。15人前後集まったら、自己紹介的に「今日の体調・気分、研究したいこと」を語る。その中から、皆で語り合う「本日のテーマ」を2人選び、各40分ぐらいかけて、ホワイトボードに書きつつ説明を聞きながら質問やアドバイスをし合う。その後、感想の分かち合いで終了する。否定せず、対等に語り合うことを大切にする。苦労や生きづらさは存在しているが、なぜか軽く楽になる。問題の外在化とも、弱さの情報公開とも言える。最近のテーマは「爆発する仲間との関係」「巻き込み病」「外の自分と中の自分」だった。

8年前から教会の会場貸しとして当事者研究を始めた。例会とは別に実行委員会（ひだまりミーティング）がある。ある日の実行委員会で「教会とは」が研究テーマになった。メンバーは、我々牧師以外は教会員ではないので、さて何が語られるか新鮮な思いでいた。教会のイメージは？に対して、「葬式、結婚式、堅苦しそう」の声。さらに「教会？ 滅びよ！と思う」と。親のカルト的な信仰に苦労した方からの声だった。他「私は仏教徒なので・・・」など。でも、「来てみたら、休まるし、特殊な場ではなく日常だった」と嬉しい声も。

それから、月日が流れ、「滅びよ！」と語った方は、他教会の信徒となり、「仏教徒なので」と語った方も、そろそろ洗礼を受けようか・・・とおっしゃっている。参加者の中から、島松の礼拝や教会行事に出席される方もおられるが、「礼拝って当事者研究の時のイメージと変りませんね」という感想にとっても嬉しく背中を押される気持ちになる。月1回のペースで当事者研究を続けているが、内容的には礼拝とは異なるし、聖書や賛美歌も登場せず、イエスやキリスト教について語ることもほぼない。でも、そこで何かが起こり、何かが生まれているのは確かだ。

暮らし、体調、人間関係、就労などの苦労を語り合い、安心できる仲間と「研究」する。その場で、自分自身の再発見と受容が生まれ、解放された私は次への一歩に導かれていく。礼拝の時と同じ出来事がそこにはあるらしい。

ブックトークからイメージした多様な礼拝

島松伝道所 松中照夫

ブックトークのキャッチコピーは、「ホンとのあなたに出会いたい」。毎回およそ10名程度の参加者が一人1冊の本を、5分間で紹介する。その1冊は、参加者それぞれが大切にしている本、感動した本などで、マンガあり、絵本あり、趣味の解説書、スポーツから哲学、小説、時事解説など、まさに多種多様。参加者のその本への思い入れが熱く語られる。

自分の関心の範囲は限られている。だから、自身の興味の枠からはみ出た本を手にするには少ない。しかし、ブックトークで語られる熱い思いは、新しい分野の本に導いてくれる。初めて会う人であっても、好きな本をとおして心の開いた良い交わりの時間となる。日頃語ることでできない日常生活での生きづらさや、大勢の中で埋没している個性が、本への思いという形に変えて表現されている。まさにホンとのあなたと出会える時なのだ。

礼拝は、ありのままの自分を受け入れてくれる時であると同時に、イエス様と向き合うことで自分のありのままの姿を発見できる時でもある。だとすると、このブックトークをヒントに別の形の礼拝がイメージされる。例えば、礼拝に集った信徒が、それぞれにとって信仰の糧となった聖書の箇所を一人5分間で語りあう。それに讃美歌や感謝献金などを含めたら、これはもう立派な礼拝の時となるのではないかと思う。

Voice of Praise に与えられた恵み

島松伝道所 伊藤周子

私たちは、ゴスペルクワイヤー「Voice of Praise」。今年12年目。この間、島松教会を会場に活動してきました。毎週火曜の夜は、仕事帰りのメンバーも多く、ちょっと疲れ気味の体を、ストレッチでほぐし、発声をし、ゴスペルを歌います。途中、牧師でありメンバーでもある辻中明子先生のメッセージタイム。ゴスペルの歌詞の中にある、イエスの生き方、聖書の考え方など、分かりやすく話していただきます。私たちも、歌の中にそのメッセージを伝えられるように、練習に励む毎日です。練習が終わると、なぜかみんな笑顔。ここに来ると元気になれると言います。

今年、私たちの指導をしてくださっていた Natsuki 先生を、主のみもとに送りました。先生は、木の香り溢れるこの教会をととても気に入ってくださっていました。心がリラックスし、一人一人の声がよく聞こえる。だから、お互いの声を聞きあい、心模様も見える、と。いつも、お互いのことを語り合い、祈りあえることが嬉しいと。

先生は「続けること。賛美の歌を止めないこと。帰ってくる場所があるという安心と平安を持ち続けてほしい」という言葉を、私たちに遺してくれました。Natsuki 先生とメンバーとの出会いを与えてくださった神様に心から感謝します。

島音祭°（シュマオマブ）で起きている出来事

島松伝道所 大西真言

今年で5回目を迎える島音祭°は2016年に献堂1周年として始まった。私も出演者の一人としてささやかな歌を届けるとともに、司会者としてユニットのなれそめや音楽への思いをお聞きする中で、島音祭°で起きている数々の出来事を感じてきた。

視覚障がいの青年の鉄道音真似…音感が良く駅や車内のアナウンスから機械音までリアルな声

帯模写だが、昨年は打楽器によるレール通過音や弦楽器によるモーター音エンジン音まで加わり、島音祭^o ならではの呼び物となった感がある。実は彼には発達障がいもあり友達が少なく、マニアックな音鉄の趣味は「鉄」仲間以外には隠してきたが、島音祭^o で人に喜ばれることで、ありのままの自分を受け入れ、居場所を見つけられたという。

精神的な生きづらさを抱える方のパワフルなラブソングは、今やビッグバンドやバックコーラスも加わり、島音祭^o のクライマックスの一つとなっているが、出会ったばかりの頃の厭世的で排他的な詩のイメージからは別人の感がある。演出の JaXon さんの粘り強い関わりや両牧師の見守りもあり、彼の真っすぐな音楽へのパッションが引き出されたが、私には、イエスと出会い自身の内に尽きない泉を見出したサマリアの女の記事がイメージされる。言うまでもなく彼らのパフォーマンスは讃美歌でもなんでもない。「すべての人がその人らしく、その人なりに音楽をとおして人とつながる」ことを願う島音祭^o では、直接的な讃美の音楽は教会メンバーの讃美歌と VOP のゴスペルくらいだが、その場で起きていることは、まぎれもなく福音のドラマではないだろうか？

創立 63 周年記念音楽讃美礼拝

式次第 (2017 年 3 月 5 日) 受難節第 1 主日礼拝

創立 63 周年記念音楽讃美礼拝

司式	伊藤周子	奏楽	塩見昭代・JaXon	
前奏	(J. S. Bach カンタータ 82-3. Aris)	大西真言	JaXon	
招詞	ヨエル書 2:12~13	司式者		
主の祈り		一同		
教会の歴史	①前史・桜森の恵庭教会			
	②草創期			
	③奮闘記	辻中明子牧師		
讃美歌	563 ここにわたしはいます	一同		
聖書	イザヤ 53:12	司式者		
教会の歴史	④革新期			
	⑤苦労と成熟期	福田道子		
讃美歌	57 ガリラヤの風かおる丘で	一同		
聖書	マタイ 4:1~4(p4)	司式者		
説教	「神の言葉で生きる」	辻中徹也牧師		
祈り		//		
聖餐式	81 主の食卓を囲み			
報告		大西真言		
献金				
頌栄	29 天のみ民も	一同		
派遣の言葉		辻中徹也牧師		
祝祷		//		
後奏				

← 音楽礼拝は年数回、様々な楽器やゴスペルなど奉仕して頂いている

← バスバリトン、ピアノ

← 教会の歴史を 5 期に分けて、スライドを映しながら、短く証言した

参考「礼拝の神学」岸本羊一

3 教会オリジナルのリタニー（連禱）

「悔い改めのリタニー」

札幌元町教会

報告者 藤巻朋子

札幌元町教会の主日礼拝では、みんなでリタニー（連禱）を唱えています。

礼拝式順は、

前奏⇒招詞⇒頌栄⇒悔い改めの祈り(リタニー)⇒聖書・祈り⇒使徒信条⇒讃美歌⇒説教・祈禱
⇒讃美歌⇒(こどもメッセージ)と祝福⇒主の祈り⇒献金・祈り⇒頌栄⇒祝禱⇒後奏

『札幌元町教会版リタニー』は、

降誕前節・降誕節・復活前節・復活節・聖霊降臨節の各教会暦にあわせて、年間に6パターンを作ります。パターン毎に、招詞・はじめの頌栄・終わりの頌栄も替えています。ここでは、2019年度版を紹介します。

誰がつくるの？

リタニー創りには、こども・おとな・信徒・牧師など誰でも参加して構わないと思います。『2019年度版 札幌元町教会リタニー』の作者は高濱心吾牧師、高濱梨紗牧師、藤巻朋子キリスト教教育主事です。私たちは毎回、原案をもとに相談して完成させています。

始めたきっかけは、

礼拝において「悔い改めの祈り」を取り入れることが決まり（2011年～）、当初は「成文」または「リタニー」でと言うことでした。実際に行なってみると、みんなで唱えることができるリタニーが定着していきました。今では、繰り返し唱えながら主イエスの歩みを思い起こしています。

悔い改めのリタニー（連禱）

I. 《2019年度-1 復活節》 2019.4.21～6.2

○招詞：マタイによる福音書 28：10 ○頌栄：329①③⑤、27

ししき) 十字架の死から、甦よみがえられた主イエス・キリストの父なる神さま。

みんな) あなたの驚おどろくべき御業と、尊とうとい御名を讃美いたします。

ししき) あの日曜の輝かがやく朝、十字架の主イエスが、死の束縛から解き放たれました。

みんな) あの墓から、死の限界を超えて、生命が歩み出てきました。

ししき) わたしたちの想像もつかない、絶対に不可能な出来事が起こりました。

みんな) 未来が扉を開き、わたしたちに新しい生命が与えられました。

ししき) けれども、神さま。時がたつと、墓の大石が、元通りに立ち塞がります。

みんな) イースターに登った太陽も、再び沈んでしまいます。

ししき) 同じ世界、同じあなた、同じわたしです。

みんな) わたしたちは、あのイースターの朝から遠く離れてしまうのです。

ししき) 主よ、どうぞ、わたしたちの罪をお赦してください。

みんな) わたしたちの弱さを憐れんでください。

ししき) 今日もまた、あなたの御言葉によって、わたしたちを新しくしてください。

みんな) あなたの深い愛と、驚くべき御業を、信頼して生きるわたしたちにしてください。

一同) 甦りの主、イエス・キリストの生命を引き継いで生きる教会となれるよう、お導きください。アーメン

II. 《2019年度-2 聖霊降臨節》 2019.6.9～7.28

○招詞：ヨエル書3：1 ○頌栄：342①③、54①②③

ししき) 主イエス・キリストの父なる神さま。

みんな) 主の十字架と復活、聖霊降臨の出来事に感謝します。

ししき) ペンテコステの日、あなたの“霊”が一人一人の上に留まりました。

みんな) バラバラなことを言い、別々の道を歩みがちな人々に、聖霊が注がれました。

ししき) 私たちにも、あなたからの聖霊が注がれました。

みんな) 年齢も出身地も経験も異なる私たちに、聖霊が注がれました。

ししき) 主は、私たちを、神さまのもとへと呼び戻してくださいました。

みんな) 主の呼びかけがなければ、私たちは今も、失望の中にいたでしょう。

ししき) 主は、私たちに、真の教えを教えてくださいました。

みんな) 主の教えがなければ、私たちは今も、迷いの中にいたでしょう。

ししき) 主は、私たちに、新たな“いのち”を与えてくださいました。

みんな) 主の愛がなければ、私たちは今も、古い秩序の中にいたでしょう。

ししき) 神さまのもとには、多様な人々が集まります。

みんな) 私たちはともに、神さまから与えられる希望を携えます。

ししき) 神さまのもとには、様々な意見を持つ人々が集まります。

みんな) 私たちはともに、神さまからのみ言を聞き続けます。

ししき) 神さまのもとには、すべての人が招かれます。

みんな) 私たちはともに、神さまからの聖霊の力を得て歩みます。

一同) あなたの御名をたたえます。世界中に、あなたの御心が顕れますように。

私たちに、聖霊に生かされる信仰の道を歩ませてください。アーメン

Ⅲ. 《2019 年度-3 聖霊降臨節》 2019. 8. 4～2019. 10. 20

○招詞：箴言 5：21 ○頌栄：5 3 3、1 7 5①②③

ししき) 神さま、今日もわたしたちに新しい命をありがとうございます。

みんな) おとも子どもも、毎日を生懸命に生きています。

ししき) 神さまは、わたしたちがのびのびと生きていけるようにいのちをお与えになりました。

みんな) わたしたちは、そのことを知っています。

ししき) 元気な子ども、恥ずかしがり屋な子ども、障がいのある人も。

みんな) お仕事をしている人も、おじいちゃんも、おばあちゃんも。

ししき) みんな神さまの子どもです。

みんな) みんなが安心して暮らせるようにしてください。

ししき) 家族や周りの人と仲良く暮らせますように。

みんな) 考えの違う人や苦手な人も愛せますように。

ししき) わたしたちは神さまの考えと反対のことをしてしまう時があります。

みんな) その時は気づかせてください。

ししき) 人を責めてしまう時があります。

みんな) その時は、わたしたちもゆるされていることを思い出させてください。

一同) すべての人が生き生きと、与えられたいのちを生きていけますように。

そんな世界を望んでいます。そのために私たちと教会を用いてください。アーメン

Ⅳ. 《2019 年度-4 降誕前節》 2019. 10. 27～12. 22

○招詞：ヨハネによる福音書 3 章 16～17 節 ○頌栄：231①③、268①④

ししき) この世界を愛し、キリストを遣わして下さった神様。

あなたの限りない憐れみに感謝します。

みんな) クリスマスの夜、飼い葉おけに宿された、あなたの愛に守られ、導かれながら、

この年も歩むことができました。感謝します。

ししき) 神様、この年も、あなたの創られた世界の内に、差別や、争いや、災害や、涙が、
なくなりませんでした。この世界に、あなたの御国をもたらす事ができなかった力なき、
わたしたちの罪を御前に告白します。

みんな) この世界と、わたしたちの罪を懺悔します。どうかお赦してください。

ししき) 神様、暗い闇の中であって、涙する多くの人々がいます。

みんな) わたしたちはどのような言葉を語ればよいのでしょうか。何を行えばよいのでしょうか。

ししき) 神様、そのために、わたしたちは今日も、あなたに祈り、御言葉に耳を傾けます。
 みんな) わたしたちは、あなたに聴きます。主よどうぞ、お語りください。
 ししき) キリストの福音を、この世界に伝えることができますように。
 みんな) キリストの神の国を、この世界の現実とすることができますように。
 一 同) この礼拝によって、わたしたちに、そのための言葉を与えてください。
 歩むべき道、求めるべきものを示してください。
 降誕の喜びを、この世界と共にすることができますように。アーメン。

V. 《2019 年度-5 降誕節》 2019. 12. 29～2020. 2. 23

○招詞：マタイによる福音書 2 章 5～6 節 ○頌栄：267①④、433①⑤⑥

ししき) 神さま、あのベツレヘムの飼葉おけに宿された、
 あなたの愛と守りと導きに感謝します。
 みんな) すべての罪を取り除く主を与えてくださった、神さまの憐れみに感謝します。
 ししき) あなたの限りない愛と憐れみに感謝し、あなたの守りと導きを喜びながらも、
 わたしたちは時々、あなたから離れそうになります。
 みんな) わたしたちの罪を懺悔します。どうかお赦してください。
 ししき) わたしたちは、この社会の、矛盾・不平等・理不尽を
 なかなか克服できないままです。
 みんな) この世界と、わたしたちの罪を懺悔します。どうかお赦してください。
 ししき) わたしたちの生きるこの世界には、豊かな人・貧しい人・健康な人・病気の人・
 友達の多い人・孤独な人など、いろいろな人々がいます。
 あなたは、その一人ひとりを大切にしておられます。
 みんな) あなたが大切にしている人々へ、わたしたちは何を 行えばよいのでしょうか。
 ししき) 神さまは、一番先に、貧しい羊飼いに、御子の誕生を知らされました。
 救い主を最も必要とする人々のもとに福音が届きました。
 みんな) わたしたちも、キリストの福音を、この世界に伝えることができますように。
 一 同) わたしたちは、あなたに従います。
 あなたの言葉に耳を傾け、あなたに祈り、あなたを求めて歩みます。
 福音の喜びを、この世界と共にすることができますように。アーメン。

VI. 《2019 年度-6 受難節》 2020.3.1~4.5

○招詞：ヨハネによる福音書 11 章 25 節 ○頌栄：307、418①

ししき) 神様は今日もわたしたちを教会へ招いてくださいました。

みんな) 主の深い愛に感謝します。

ししき) イエス様は、わたしたちと神さまの懸橋となりました。

みんな) 弟子たちと共に生き、悲しんでいる人に福音を届けられました。

ししき) イエス様に会った人たちは、「この方こそ救い主である。」と思いました。

みんな) イエス様の言葉は、深い愛情に満ちていました。

ししき) しかし、次第に人々は「この人を十字架につけよ！」と声をあげました。

みんな) 自分たちの正しさを守るためでした。

ししき) イエス様は「この人たちをお許してください。

自分が何をしているのか分からないのです。」と祈られました。

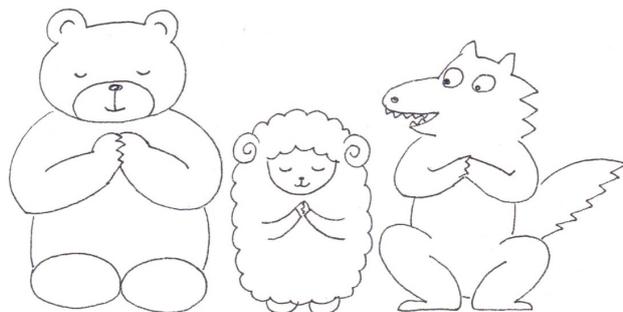
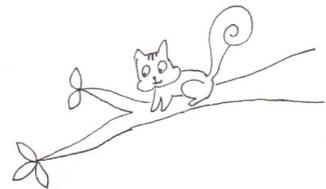
みんな) 背を向ける人々に、赦しを与えられました。

ししき) レントの時、わたしたちはもう一度自らを省みる必要があります。

みんな) 輝き続ける光の主を、心に迎えさせてください。

一同) この礼拝を通して、わたしたちが神様を見上げて歩いていけますように。

かたく ころろ う くだ ことば かけて やしな
頑 々な 心 を 打ち 砕 き、み 言葉 の 糧 を 養 わ せ て ください。アーメン。



Ⅲ 代務体制の時の礼拝

アンケート回答まとめ（実施期間 2019 年 7 月—12 月）

報告 26 教会（代務体制を経験した教会）

質問 主任牧師が不在の教会、もしくは不在期間を経験された教会は、
その期間をどの様に礼拝を守られたかをお書きください。

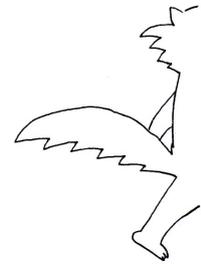
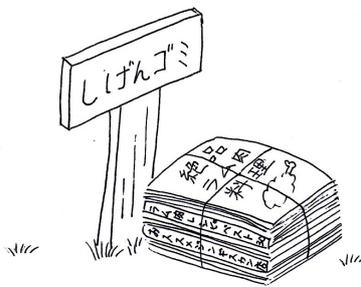
教会・伝道所	回答内容
稚内	主任牧師が不在となってから、代務者は月に 1 度教会で礼拝説教を行っている。それ以外の礼拝は、事前に代務者の説教を録音したものを用いている。（興部伝道所 主任が月 1 度、稚内へ行くため、不在の礼拝では事前に録音した説教を用いている）
名寄	代務者は原則月 2 回説教、その他は教区の牧師が応援、もしくは信徒による証など 讃美礼拝～リクエストにすぐに答えられるオルガニストが担当 インタビュー～自ら「証し」を起こす等難しい方に、予め「質問」を示し、壇上からではなく、フロアに椅子で座って会衆と視線を等しくし、対話方式をもって「証し」する。 朗読～メッセージ集から、当教会に該当する（しそうな）ものを選び当教会に無関係な部位を除きメッセージ
士別	原則、第 1 日曜日、第 3 日曜日の午前中 10 時半から、月 2 回礼拝、年に 2 回礼拝予定表を作り、士別教会関係者と道北地区の教会に配布。 メッセージは代務者が担当。交換講壇などで年に数回、地区内の牧師が説教。第 3 木曜日には、地区内の教会より、10 人くらいの方が応援に来てくださる。
和寒	2019 年度から後藤が代務者を務めている。道北地区が中心となって運営担当委員会を組織し、教会運営にあつたっている。 説教も代務者が半分、残りを道北地区の牧師が行う。 礼拝は月に 1 度、クリスマス礼拝を加えて計 13 回
旭川星光	代務者が牧師館に住んでフルで働いて下さいました。
美馬牛福音	代務者の方が住み込み（旭川）、主任のような働きをされました。
置戸	代務者：月 1 回ないし 2 ヶ月に 1 回礼拝を担当（年度によって異なる） その他の週の礼拝の守り方：役員奨励、信徒奨励、テープ・DVD・CD 説教、YouTube 説教。協力牧師やつながりのある教会からの説教応援
帯広教会	代務者による説教及び、他教会、引退牧師、テープによる説教
中標津	代務者礼拝月 1 回（年 12 回）、協力牧師 年 6 回、 5 週ある月は 1 週、信徒の証・その他、CD 説教

新得	<p>代務の先生には、原則月 1 回、その他クリスマス・イースター・ペンテコステ礼拝説教。月 1 回は「讃美礼拝」、その他は「信徒の証し」又は「応援説教」</p> <p>①「讃美礼拝」は、2 年間の無牧師期間を通して、マルコ福音書通読と関連讃美を中心に実施、*讃美礼拝の式次第例は別紙</p> <p>②高齢者の「信徒の証し」については、負担の無いように、会衆席で証し者を中心に円くなって司会者の進行によりインタビュー形式で 3 回実施</p>
栗山	<p>大きく 2 つの時期がありました。</p> <p>①月に、代務者 2 回、地区内外の牧師 1 回、分かち合い礼拝 1 回、第 5 主日は信徒奨励</p> <p>②月に、代務者が 3~4 回、分かち合い礼拝 1 回</p>
十二使徒	<p>必ず説教者を招いた。(代務者、特別説教者)</p> <p>礼拝では必ずみことばの説教を聞くというのが礼拝なので。</p>
月寒	<p>①代務者の東札幌教会の黒田牧師が月 1 回 礼拝を担当</p> <p>②外部の牧師が月 2 回 ③信徒の奨励が月 1 回、</p>
厚別	<p>代務が決まらない期間、全ての聖日、札幌地区・キリスト教主義学校、クリスチャンセンターの各教師に支えていただきました。感謝です。代務者が決まってからは月 1 回担当して頂きました。</p> <p>礼拝形式は、当教会の通常の形式で行っていただいた。</p>
真駒内	<p>月二回代務の牧師先生と他教会の牧師先生で、他は信徒の奨励で守っています。</p>
札幌元町	<p>代務者月 2 回、外部牧師月 1 回、信徒説教月 1 回 礼拝を担当</p>
琴似中央通	<p>代務者が月 1、他は札幌在住の牧師又は信徒の証</p>
札幌富丘 手稲はこぶね	<p>不在の際は、月に一回代務者が説教し、他は信徒 1 回、あと 2 回はレギュラーの牧師とゲストの牧師にお願いしました。</p> <p>礼拝形式に変更はありませんでした。</p>
余市	<p>直近の主任担任教師不在は 2007 年から 6 月から 2008 年 3 月。</p> <p>手元にある記録では、36 週のうち、代務教師 22 週、北星余市高校宗教主任 5 週 (いずれも余市町在住)、残り 9 週を札幌路在住の隠退、無任所教師と他教会牧師に講壇奉仕をお願いした。</p>
千歳栄光	<p>2006 年 10 月~2008 年 3 月の代務体制期間</p> <p>(代務者が月 1 回、教会員が月 1~2 回、他教会の牧師が 1~2 回)</p> <p>礼拝形式は特に変えていない。</p>
洞爺湖	<p>代務者の時期によって多少の違いはある。</p> <p>①代務者：月 1~2 回 メッセージの取り次ぎ</p> <p>②苫小牧地区の牧師・信徒：月 1 回ほど メッセージ応援</p> <p>③室蘭知利別教会の信徒：1、2 ヶ月に 1 回 メッセージ応援</p> <p>④信徒による分かち合い礼拝：祈りは一人ずつか、司会者やメッセージ担当者がまとめてすることもある。</p> <p>たった一人の礼拝の時は、讃美歌を歌い、聖書を読み、祈っていた。</p>

元浦河教会	代務者と地区で協力して礼拝を捧げた。
利別	役員中心に礼拝のメッセージをやりました。 代務者（八雲教会等）、宣教師に来てもらいました。
江差	代務者：月2回、代務者の夫：月1回、地区の牧師が交代で月1回 午後2時30分からの礼拝 午後2時30分より毎週礼拝を続けることで、礼拝者が安定して与えられていたと思います。
渡島福島	福島の方は、月一度柴田先生に礼拝をしていただき、その後に役員会。 別の週は、月一度藤崎先生（函館千歳の担任教師）による説教。月2回、 CD（柴田牧師）による説教。

※ この表は、アンケート提出時（2019年度以前）の現状、もしくは以前の経験の報告です。現在（2020年11月）、北海教区内の代務体制の教会・伝道所は、稚内、士別、和寒、月寒、手宮のみとなっています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、上記5教会の礼拝の曜日や形式が変更されている場合もありますので、出席される場合は各教会にお問い合わせください。





互いの礼拝を豊かに ～ 北海教区いろんな礼拝ヒント集 ～

2020年11月18日発行

編集担当者 日本キリスト教団北海教区宣教部革新部門委員会

2020年度「共育」担当 藤吉求理子 荒谷陽子 岸敬雄 高杉香苗

発行者 日本キリスト教団北海教区宣教部革新部門委員会

060-0807 北海道札幌市北区北七条西6丁目

北海道クリスチャンセンター3F

電話 011(716)5334